



インフォメーション

日本蜘蛛学会第30回大会 (滋賀県草津市)のお知らせ

本年度の日本蜘蛛学会大会・総会は、下記の通り、滋賀県草津市の立命館大学びわこ草津キャンパス(BKC)で開催されることになりました。本年度は、通常の大会・総会の前日に市民向けのプレ・シンポジウムと採集・観察会を持つことになりましたので、この企画も併せてご案内申し上げます。

1. 日程:1998年8月21日(金)~8月23日(日)

- 21日 13:30~16:30 プレ・シンポジウム
「クモの文化論」
17:00~市民向け採集・観察会(キャンパスとその周辺)
- 22日 10:00~12:00 一般講演
13:00~14:00 総会
14:00~17:00 シンポジウム「クモ糸の多様性」
18:00~20:00 懇親会
- 23日 9:30~12:00 一般講演

2. 会場

立命館大学びわこ草津キャンパス(BKC)フォレストハウス201号室および204号室
525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1

3. 宿舎(別送の大会案内参照)

今回は、他の学会にならって宿舎のお世話を

いたしませんので、ご了承下さい。後日郵送する大会案内に会場に比較的近い宿舎の一覧がありますので、各自で申し込んで下さい。

4. 参加費用

大会費 5,000円

懇親会費 4,500円

食事 21日の昼食と夕食は大学生協の食堂でお召し上がり下さい。22日の昼食は弁当となります(生協は休みです)。22・23日の朝食は宿舎あるいはその周辺で済ませてきて下さい。(22日の夕食は懇親会です)

(吉田 真)

小澤實樹氏の
クモの展覧会が開かれます。
オザワミキ個展「クモの形態・デザイン展」
1998年6月2日~7日
東京都中央区銀座4-3-14(並木通り)
GALLERY中沢にて

NHK「日本人の質問」
にクモが登場
1998年6月14日(日)19:20
キシダグモとは? アズマキシダグモの
婚姻贈呈の様子が紹介される。
解説 新海栄一氏

同好会情報

日本には日本蜘蛛学会だけでなく、各地に同好会がある。ここでは、そこで行なわれる採集会や講演会、そこで発行される定期行物などの活動内容を紹介する。興味を持たれた方はぜひ入会して、行事などに参加されてはいかがだろうか。

関西クモ研究会（会長：山野忠清）

会報「くものいと」を年2～3回発行。採集会・研究会例会などを年数回実施。

今年度の採集会は、1998年6月7日（日）、10月4日（日）、1999年3月21日（日）の3回。JR阪和線山中溪駅前午前11時集合。参加希望者は加村隆英氏まで連絡を。

合宿も実施の方向で検討中。

例会は、1998年12月13日（日）に大阪市の四天王寺高校で実施の予定。



くものいと 23号（1997.12.31発行）

田中穂積：I K I P（千島列島の生物多様性の調査）に参加して

吉田 真：テレビ三題話

関西クモ研究会例会の記録

船曳和代：クモの網標本の作り方

西川忠樹：クモの観察会（深泥池）

吉田 真：西川忠樹さんへの手紙

榎元智子：むっちゃん情報

ムツトゲイセキグモの採集記録

その他 雑誌，新聞記事からの転載情報

入会申し込み

567-8502 茨木市西安威 2-1-15

追手門学院大学生物学研究室関西クモ研究会

Tel 0726-43-5421

（内線 5113 西川研，5106 加村研）

Fax 0726-43-5427

会費 年1000円

中部蜘蛛懇談会（代表：村上 勝）

会報「蜘蛛」を年1回、「まどい」を年3回発行。採集会・例会を年数回実施。

今年度の採集観察会

1998年5月17日（日）愛知県藤岡町昭和の森。集合は午前10時に地下鉄東山線本郷駅南のコンビニ前。参加者は事務局まで連絡下さい。

1998年9月6日（日）名古屋市千種区平和公園。集合は午前10時に地下鉄「東山公園」出入口。

合宿（三重クモ談話会と合同）

1998年7月19日～20日岐阜県山県郡美山町。集合はJR岐阜駅に11時30分。詳細は事務局までお問い合わせください。

総会・研究会は、1999年2月11日（木）に予定。

蜘蛛（KUMO）30号（1998.2.11発行）

中部蜘蛛懇談会会報「蜘蛛」第30号記念特集：
我が家のクモ .北海道から大阪府までの会員19
名が執筆 .

田中穂積：マレーシア・カリマンタン（ボルネ
オ）島採集記

田中幸一：チリイソウロウグモの空間分布 - ク
サグモの網には何頭のイソウロウが寄生して
いるか

福島彬人：秋田で暮らしたマダラヒメグモ

福島彬人：赤いハグモの「狩り」

益田和昌：名古屋の倍足類（ ）

益田和昌：ヤスデの交接時期について

緒方清人：愛知県におけるチクニドヨウグモの
分布

緒方清人：ジョロウグモの網についての一考察

緒方清人：立山連峰のクモ

笹岡文雄：東京のキシノウエトタテグモ

板倉泰弘：天龍川中下流部河川敷の真正クモ類

須賀瑛文・小笠原幸恵：愛知県飛鳥村・東海団
地倉庫（株）敷地内のクモ 1年間の記録

宮下和喜：クモの飼育についての一考察

短報

板倉泰弘：ハナグモの背中にアズチグモ

須賀瑛文：クロガケジグモ静岡県に進出生息す
る

須賀瑛文：三重県のクロガケジグモ（2）

緒方清人：コミナミツヤハエトリを採集する

緒方清人：ヤガタハエトリを採集する

入会申し込み

444-0930 岡崎市東大友町字松花 86-1-103号

板倉泰弘（事務局）

Tel 0564-34-2753

会費 正会員 年2500円（高校生以下1000
円）

準会員 「まどい」のみ500円

三重クモ談話会（本部：太田定浩）

会報「しのびぐも」を年1回発行．採集会・
合宿・例会などを年数回実施．

今年度の採集観察会は、度会郡紀勢町および
多気郡宮川村一帯．1998年5月17日（日）、
1998年9月20日（日）、1999年3月21日（日）．
JR伊勢柏崎駅10時集合．参加希望者は事務
局まで連絡のこと

四日市市内のセアカゴケグモの分布実態調査
1998年6月14日（日）詳細は事務局まで．
合宿（中部蜘蛛懇談会と合同）

1998年7月19日～20日、岐阜県山県郡美
山町．集合はJR岐阜駅に11時30分．詳細は
事務局までお問い合わせください．

総会兼採集会は、1999年3月21日（日）
に予定．

しのびぐも 25号（1997.12.31発行）

緒方清人：駒ヶ岳山麓のクモ

小笠原幸恵：飼育下におけるサヤヒメグモの生
態 - 交接・産卵・成長について -

福島彬人：続 クモ三題ばなし

福島彬人：北限のシノビグモ



三重クモ談話会：その後の四日市のセアカゴケ
グモ

武藤茂忠：古典芸能中の蜘蛛のイメージ

太田定浩：日本蜘蛛学会第29回大会・総会を
四日市市で開催して

小笠原幸恵：春 出逢い たとえばツクネグモ
のことなど

三重クモ談話会採集観察会報告

入会申し込み

515-0044 三重県松阪市久保町 1843 - 157

貝發憲治（事務局）

会費 年 1500 円

和歌山クモの会（会長：米田 宏）

会報「和歌山クモの会会報」を年1回発行．

総会・観察会を年1回開催．

今年度の採集観察会は，1998年8月30日
（日）新宮市高田グリーンランド付近．

総会・研究会は，1998年8月30日（日）
に予定．

和歌山クモの会会報 No.7(1997.6.10 発行)

米田 宏：クモに関する迷信や伝説（3）

米田 宏：クモに関する迷信や伝説（4）

東條 清：和歌山にもセアカゴケグモ現れる

稲田武彦：俳人小林一茶の「蜘蛛」を詠んだ句
について

和歌山クモの会事務局：和歌山クモの会総会と
観察会

入会申し込み

642-0002 海南市日方 1156 東條 清(事務局)

会費 年 500 円

東京蜘蛛談話会（会長：萱嶋 泉）

会報「KISHIDAIA」を年2回，「談話会通信」
を年3回発行．採集会年4回・合宿年1回・総
会例会などを年2回実施．

今年度の採集会は，1998年5月17日（日），
7月12日（日），10月18日（日），1999年2
月21日（日），埼玉県飯能市天覧山．集合は午
前10時（時間厳守），西武池袋線飯能駅北口階
段下．

合宿は1998年7月25日（土）～27日（月）
埼玉県秩父市，東京大学秩父演習林周辺．詳細
は事務局まで．

合同例会は1998年12月6日（日）午前10
時より，目黒区駒場住区センターの予定．

KISHIDAIA 73号（1998.1.31 発行）

追悼：近藤昭夫氏を悼む 錦三郎氏を悼む

加藤むつみ：トゲグモの成長に伴う模様の変化
と硬化部位

新海 明：沖縄クモ観察記（3）

池田博明：室内でのクモの実験と講話

谷川明男：オオジョロウグモの造網場所移動の
観察

DRAGLINES

畑守有紀：全国クモ相談室 第1回 滋賀県
産オヒキグモの一種について

平松毅久：夜間にぶら下って眠る？ハエトリ
グモ

新海 明：セマルトラフカニグモによるアリ
の捕食

平松毅久：続報5年前のサカグチトリノフン
ダマシ

笹岡文雄：カネコトタテグモの孵化

谷川明男：北海道でオノゴミグモが採集され
た

工藤泰恵：ムツトガイセキグモの飼育下にお
ける投げ縄行動

谷川明男：ジョロウグモの迷網除去実験

新海 明：オオヒメグモの寄生するハチ（マ
ダラコブクモヒメバチ）

新海 明：沖縄県での珍種の採集記録

平松毅久：東京蜘蛛談話会 1994 年度観察採
集会報告 飯能市西吾野のクモ

宮下 直・笹岡文雄：東京蜘蛛談話会 1995 年
度観察採集会報告 東京都田無市・東京大学
農学部付属演習林田無試験地のクモ

安田明雄：東京蜘蛛談話会 1996 年度観察採集
会報告 小網代の森のクモ

笹岡文雄：東京蜘蛛談話会 1996 年度合宿報告
茨城県久慈郡大子町のクモ
入会申し込み

350-0816 川越市上戸91-3 瀬尾荘 202

平松毅久(事務局)

TEL 0492 - 33 - 8792

会費 年 2800 円(学生 2000 円)

関西クモゼミ

毎月 1 回,第 2 か第 3 土曜日か日曜日に滋賀
県草津市の立命館大学で開催。会費などなく誰
でも参加できる。

連絡先 立命館大学理工学部生物地球科学研
吉田 真 0775-61-2660

東京クモゼミ

毎月 1 回,第 1 日曜日に東京大学農学部の宮
下研または神奈川県立七里ガ浜高校で開催
(1998 年 5 月から)。会費などなく誰でも参加
できる。東京クモゼミ報告(プリント)を配布。

連絡先 新海 明 042 - 522 - 2605

(新海 明)

採集情報

日本各地で採集された 稀産種や分布上の重要種な
どについての情報を掲載する。これを読み、「私もこ
んな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是

非お寄せいただきたい。今回は、その後に寄せられた
1997 年の採集情報の続報を掲載する。

マメイタイセキグモ

三重県桑名郡多度町美鹿 1997 年 9 月 21 日

成体 1 小笠原幸恵

ムツトガイセキグモ

千葉県千葉市千葉県立中央博物館生態園

1997 年 8 月 6 日幼体 1 久保田三栄子

クロガケジグモ

静岡県榛原郡浜岡町下朝比奈 1997 年 7 月 30

日,10 月 10 日多数 須賀瑛文

オノゴミグモ

北海道朝日町岩尾内湖畔 1997 年 7 月 16 ~

18 日 成体 1 採集者不明

キイロハラダカグモ

静岡県浜北市浜北大橋 1997 年 5 月 26 日

亜成体 1, 成体 1 板倉泰弘

キジロオヒキグモ



京都府京都市左京区深泥池 1997 年 8 月 27
日 成体 2 石黒航平

シノビグモ

秋田県北秋田郡藤里町太良峡 1997 年 8 月 16

日 亜成体 2 福島彬人

チビクロドヨウグモ

熊本県球磨郡相良村野原 1997 年 10 月 21 日

成体 1 入江照雄

熊本県熊本市立田山 1998 年 4 月 11 日 成

体 1 入江照雄

オオクマヒメドヨウグモ

千葉県船橋市船橋民の森 1998 年 2 月 22

日幼体多数 東京蜘蛛談話会採集会参加者

(新海 明・谷川明男)



最近発表された日本のクモの分類に関連のある論文をいくつか簡単に紹介する。

Piel, W.H. & K.J.Nutt, 1997. *Kaira* is a likely sister group to *Metepeira*, and *Zygiella* is an araneid (Araneae, Araneidae): evidence from mitochondrial DNA. *The Journal of Arachnology*, 25:262 - 268.

Zygiella キレアミグモ属はコガネグモ科である。

Sierwald, P., 1997. Phylogenetic analysis of pisaurine nursery web spiders, with revisions of *Tetragonophthalma* and *Perenetis* (Araneae, Lycosoidea, Pisauridae). *The Journal of Arachnology*, 25:361 - 407.

ミナミハヤテグモの学名は *Perenetis unifasciata* とされてきたが, *P. venusta* L.Koch, 1878 とすべきである。

Kamura, T., 1997. Two species of the genera *Cladothela* and *Trachyzelotes* (Araneae: Gnaphosidae) from Yaeyama Islands, Southwest Japan. *Acta*

arachnologica, 46:77 - 81.

Cladothela auster Kamura, 1997 ハエミノチャクロワシグモを新種として記載, *Trachyzelotes kulczynskii* (Bösenberg, 1902)ナンゴクケムリグモを日本新記録として報告。

Tanikawa, A., 1997. Japanese spiders of the genus *Ordgarius* (Araneae: Araneidae). *Acta arachnologica*, 46:101 - 110.

Ordgarius hobsoni (O. P.-Cambridge, 1877)マメイタイセキグモと *O. sexspinosus* (Thorell, 1894)ムツトゲイセキグモの雄を記載。

Yoshida, H., 1997. A newly recorded species of the genus *Euryopsis* (Araneae: Theridiidae) from Japan. *Acta arachnologica*, 46:111 - 113.

Steatoda octomaculata Paik, 1995 ヤホシヒラタヒメグモを日本新記録として報告。

Ikeda, H. & S. Saito, 1997. New records of a Korean species, *Evarcha fasciata* Seo, 1992 (Araneae: Salticidae) from Japan. *Acta arachnologica*, 46:125 - 131.

Evarcha fasciata Seo, 1992 マミクロハエトリを日本新記録として報告。

Irie, T., 1997. Two new species of the genera *Pholcus* and *Spermophora* (Araneae: Pholcidae) from the Kyushu, Japan. *Acta arachnologica*, 46:133 - 138.

Pholcus yoshikurai Irie, 1997 ヨシクラコウレイグモ, *Spermophora junkoae* Irie, 1997 ヒメユウレイグモの2種を新種として記載。

Ono, H., 1997. New species of the genera *Ryuthela* and *Tmarus* (Araneae, Liphistiidae and Thomisidae) from the

Ryukyu Islands, Southwest Japan. *Bulletin of the National Science Museum, Series A*, 23:149 - 163.

Ryuthela sasakii Ono, 1997 クメジマキムラグモ, *Ryuthela secundaria* Ono, 1997 キタクメジマキムラグモ *Ryuthela owadai* Ono, 1997 トカシキキムラグモ, *Ryuthela tanikawai* Ono, 1997 イリオモテキムラグモ, *Tmarus shimojanai* Ono, 1997 ヤエヤマセマルトラフカニグモを新種として記載.

Ono, H., 1997. Spiders of the genus *Heptathela* (Araneae, Liphistiidae) from Kyushu, Japan. *Memoirs of the National Science Museum*, (30):13 - 27.

Heptathela higoensis Haupt, 1983 ヒゴキムラグモを種に昇格 *Heptathela kikuyai* Ono, 1997 ブンゴキムラグモ, *Heptathela nishikawai* Ono, 1997 ヒトヨシキムラグモ, *Heptathela yaginumai* Ono, 1997 ヒュウガキムラグモ, *Heptathela yakushimaensis* ヤクシマキムラグモを新種として記載.

(谷川明男)



ゼミ

ハエトリグモの論文再読(2)

シラヒゲハエトリの色覚 池田博明

派手なハエトリグモの色彩と行動

ウイルソンの『生物の多様性』(岩波書店)のグラビアを派手な色彩をもつ熱帯のハエトリグモが飾っている。このような派手な色彩は天敵に対する警告色なのか、それとも性選択の結果なのか。性選択の結果だったとしたら、ハエト

リグモに発達した色覚があってもおかしくはない。メスに違った色をつけるとオスの求愛行動が弱まるといった行動から、アメリカのベッカム夫妻(1894)は色を識別できると考えた。クレイン(1949)は顔の前面の色彩が求愛行動には重要であることを、ケストナー(1950)は灰色から青色や橙色を識別できることを証明した。いったいハエトリグモはどの程度の色覚を持っているのだろうか。

色覚の三原色説

動物の色覚理論としてはヤングが提唱し(1807)、ヘルムホルツが改訂した(1852)、ヤング・ヘルムホルツの三原色説が知られている。色覚はスペクトル光の青色域・緑色域・赤色域に感度の極大を持つ光感受細胞(視細胞)の興奮の割合が統合されて生ずるという説である。波長の異なるスペクトル光を操作できる技術や先端の細い微小電極(1940年以降)が開発されて、実験の精度が高まり、1960年代にはヒトやコイの網膜では三原色光に対応する3種の錐体(円錐細胞)が判明した。ニワトリやウグイでは4種の錐体視物質があった。無脊椎動物でも昆虫の複眼に異なった分光感度を持つ視細胞が発見された(ハエ; Autrum and Burkhardt, 1961. ミツバチ; Autrum and von Zwehl, 1964)。昆虫の色覚で興味深いのは大抵の昆虫は赤色光を感受できず、紫外光を感受できることであった。さて、クモの単眼ではいったいどうなっているのだろうか。

クモの網膜電位

最初にクモの単眼の電気生理学的研究を行ったのはデ・ヴォーら(De Voe and Zvargulis, 1967)で、コモリグモとハエトリグモを使った。彼らは網膜電位を測定したのだが、ハエトリグモの主眼から1種類の光感受域しか記録できなかった。これでは色覚の証拠にはならない。実

験中に中腸からの酵素が網膜細胞を破壊している可能性もあった。網膜電位ではなく、網膜内の細胞に微小電極を刺し込んで細胞内電位の変化を測定しなくてはならなかった。ランド Land (1969) はハエトリグモの主眼の網膜が4層の視細胞から出来ていることを示した(図1)と

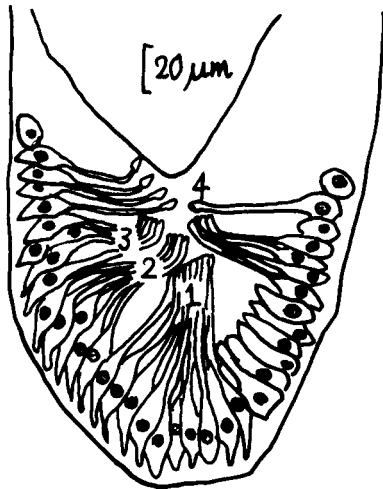


図1. ハエトリグモの主眼の網膜構造
(Land 1969 をもとに変写)

きに、もっとも奥の層が赤色域に、レンズに近づくにつれて青色・緑色域、紫色・紫外域に感ずるのではないかと予想していた。De Voe (アメリカのジョーンズ・ホプキンス大学) はなんとかこれを証明しようと必死になった。同じころ、同一の課題に取り組んでいた研究者がいた。九州大学理学部生物学教室の山下茂樹と立田栄光である。

シラヒゲハエトリを使う

九大のふたりはシラヒゲハエトリを使った。人家性で体長 6-8mm の中型のハエトリグモである。クモは九大のキャンパス内で採集できた。氷で麻酔したハエトリを透明容器に入れ、クモの生理的食塩水を満たして、カミソリで頭胸部

上面を切開する。中腸を除き、塩化カリウム液を入れた微小電極を網膜に挿入する(図2)。眼

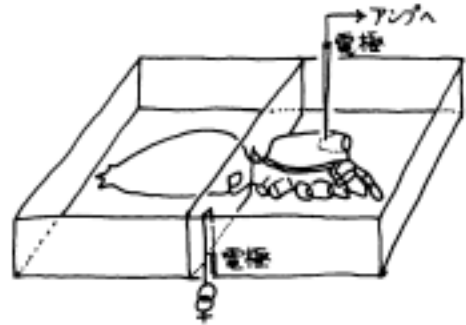


図2. シラヒゲハエトリの網膜の細胞の
電位変化の記録方法

(Yamashita and Tateada 1976 をもとに変写)

に光を当てて網膜視細胞内の電位変化を記録する。単色光はキセノン・アーク・ランプを用い、背景色光は 6-8V のタングステン・ランプに様々なフィルターをかける。

4種の分光感度

実験の結果、シラヒゲハエトリの主眼の網膜には4種の分光感度があることがわかった。それぞれの波長の極大値は 360nm (紫外域)、480 - 500nm (青色域)、520 - 540nm (緑色域)、580nm (黄色域) であった(図3)。主眼が色を識別していることは明らかであった。ラ

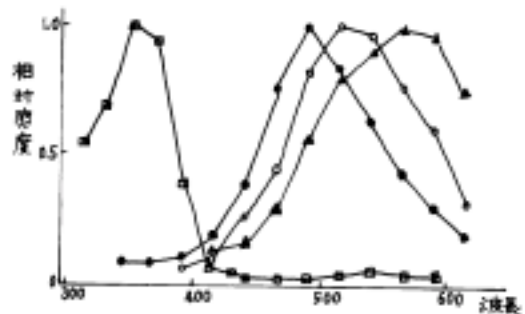


図3. シラヒゲハエトリ主眼の4種の視細胞の分光感度 (Yamashita and Tateada, 1976 をもとに変写)

ンドの仮説を検証するためにふたりは視神経側（奥の方）と角膜側（前の方）で波長を変化させたときの網膜電位を比較している。角膜側では長波長のオレンジ光に順応させたときの方が、視神経側では短波長の青色光に順応させた方が網膜電位の変化が大きいため、視神経側の視細胞は長波長の光に影響されやすく、長波長の光に対応していることになる。もし網膜の各細胞層に4種の視細胞が含まれているとしたら、網膜電位の結果はもっと複雑になると予想されるので、ランドの仮説は基本的には正しかったことが分かった。まあ、副眼（ALE）には単一の極大域（緑色域）しかなかったので色覚はない。

先を越される

ふたりはこの結果を「ハエトリグモの眼の分光感度」と題して著名な比較生理学雑誌に投稿したが、その直後に一般生理学雑誌にデ・ヴォーの「ハエトリグモ主眼の紫外域および緑色域受容体」が掲載された（De Voe 1975）。クモの種類と方法はやや異なるものの、結果はよく似ていた。アメリカのハエトリグモ *Phidippus regius* では3種、370nm(紫外域)、532nm(緑色域)、370-525nm(紫外 緑色域)にそれぞれ感度の極大をもつ視細胞が発見された。シラヒゲハエトリと比較すると紫外域と緑色域の視細胞の存在は一致するのだが、青色域と黄色域には視細胞が発見されていない。しかし、デ・ヴォーは青色・緑色域と黄色域ではその感度を詳しくは調べていないので、これは当然の結果かもしれない。また、山下と立田は紫外 緑色細胞（2種の感受域を持つ細胞）を見い出していないが、これは彼らの結果の中に含まれているのかもしれない。山下と立田は1976年に発行された論文にデ・ヴォーの結果を附記している。両種での結果の違いは種の違いによる

ものかもしれない。

網膜構造との対応

ともあれ、ハエトリグモの主眼に色覚があるのは明らかとなった。網膜のもっとも前方（第層）の視細胞が紫外域に、奥の方（第層・第層）の視細胞が緑色域に対応しているのは別の種 *Plexippus validus* でも判明した。第層は細胞が小さく、特定できなかったという（Blest et al., 1981）。

コガネグモの色覚

色覚はハエトリグモの主眼だけではない。コガネグモやナガコガネグモの主眼も色覚をもっていた（紫外域、青色域、緑色域に極大をもつ視細胞がある）。形態視とは無関係なコガネグモの主眼の色覚にどのような適応的な意味があるのかは謎である。

再読文献

De Voe, R. D., 1975. Ultraviolet and green receptors in principal eyes of jumping spiders. *J. gen. Physiol.*, 66:193-207.

Yamashita, S. and H. Tateda, 1976. Spectral sensitivities of jumping spider eyes. *J. comp. Physiol.*, 105:29-41.

フタオイスウロウグモと ツノナガイソウロウグモの見分け方

先日開催された東京蜘蛛談話会の例会でイソウロウグモの講演中でフタオイスウロウグモとして紹介引用されていた写真は、実はツノナガイソウロウグモのものであった。20数名の参加者の中でそのことに気付いたのは僅かしかいなかったようだった。実際にクモの図鑑類でもかなりまちがって掲載されている。ツノナガが記載されたのは10年ほど前のことなので無理からぬことである。ここでは、この両者の見分

け方を紹介しよう。

最大の違いはツノナガは造網性のイソウロウグモであることだ。だから、網を張っていればツノナガということになるのだが、この網は藪の中に張られていることが多く、見たことがある人は少ないだろう。また、ツノナガが張ったのか他のクモが張った網に居候しているのかわからないのが普通である。結局、網での区別はなかなか容易ではない。しかし、卵のうがその網にあれば区別は少し可能性がでてくる。ツノナガは複数の卵のうを吊しており、卵のうの大きさはフタオよりも小さく白っぽい。一方、フタオの卵のうは常に1つであり色も濃い褐色である。形態上では、腹部の形に注目してもらいたい。フタオはずんずりむっくりしているが、ツノナガはフタオに比べるといくぶん長めでスマート(?)である。また、腹部の突起がフタオは左右に開きかげんであるが、ツノナガは中央に狭く存在している。

ただし、それらの違いは初めて見る人には微妙である。そこで、実例を使って区別できるかやってみよう。クモ研究者が最もよく利用している「フィールド図鑑クモ」のフタオ(p53)は真正正銘のフタオ。「クモ基本50」のフタオ(p60)はツノナガである。ツノナガのほうが腹部が少し長めであるのがお分りになるだろうか。「学研の図鑑クモ」のフタオ(p85)の写真もツノナガである。ただし、その写真の上に描いてあるフタオの図はフタオの特徴をよく描きこんでいる。図と写真の腹部の形をよく比較してもらいたい。「写真クモ類大図鑑」ではフタオと並んでイソウロウの一種がいる(p34)。このフタオは本物のフタオであり、隣のイソウロウの一種はツノナガである。残念ながらツノナガの写真は上方からのものであり、腹部の長い特徴がでていない。しかし、卵のうが並

べられており、これこそフタオとツノナガの卵のうの違いがよくわかるというものである。

(新海 明)



トビックス

クモ関係のウェブページ

インターネット上に公開されているウェブページにもクモに関係するものが結構ある。ネット検索によって発見したクモ関連のページをここにいくつか紹介する。すでに移動したり消去されたりしてしまったものもあるかもしれない。その点をご容赦願いたい。

<http://www.ufsia.ac.be/Arachnology/Arachnology.html> arachnology のホームページ、ここから多数のリンクがある。また、クモ学のメーリングリストの案内もある。

<http://www.bekkoame.or.jp/~jyamaza/musi/kumo1.htm> 横浜で見られるクモ。いくつかクモの名前が間違っており、その旨指摘したのだが訂正してくれない。向こうの人の対応は良かったのだが……?



<http://kbic.ardour.co.jp/~maco513/nis-hiki.htm> 錦先生の紹介

<http://plaza7.mbn.or.jp/~irminia/> タランチュラ関係

<http://plaza4.mbn.or.jp/~tarantula/control.htm> タランチュラ関係

<http://www.jeims.co.jp/wnn-s/fushigi/mushi/0140.html> クモはなぜ自分の網にかららないの？

<http://www2.eni.co.jp/IKO/html/titles/fls/jWAL-SD.html> クモのCD-ROMの紹介

<http://www.justnet.or.jp/home/hidakat/kumo.htm> 加治木町のクモ合戦の紹介

<http://www.asahi-net.or.jp/~wu8i-st/LITERATURE/DOUWA/jyara.html> クモの童話

<http://www.ibcweb.co.jp/agri/idou/tanomusi0406.html> 水田害虫の天敵としてのクモの話

<http://www.iph.pref.osaka.jp/topics/topics.html> 大阪府立公衆衛生研究所によるセアカゴケグモ関係のページ

<http://ecology.kyoto-u.ac.jp/~masumoto/masumotoj.html> 榎元さんの自己紹介

<http://www.wnn.or.jp/wnn-x/sasaki/topics/topics1.html> ジョロウグモ

<http://rice.c.u-tokyo.ac.jp/~ita/game/nh/s/> タランチュラの写真

<http://www.asahi-net.or.jp/~DI2A-KTZM/index.html> セアカゴケグモ関係

<http://city.hokkai.or.jp/~kagami/seibutu.html> マツダタカネオニグモ

<http://www2.shizuokanet.or.jp/usr/sanko/law/19511301.htm> セアカゴケグモ関連

<http://www.urban.or.jp/home/fuji8/denken1.htm> 電子顕微鏡写真

http://www.msd-japan.com/!!tAanv1ZditAanv1Zdi/mmanual/sec_w/w289_03.htm クモの有毒な咬傷と刺傷 / ヤモメグモ

<http://www.ikari.co.jp/mametti/a17.htm> ミズグモ

<http://www.amda.or.jp/contents/datab>

<ase/6-2/c.html> クモ毒について

<http://www.ikari.co.jp/mametti/a16.htm> 毒グモは人を襲うの？

<http://www.a-web.co.jp/~tamaki/sato/insect.html> ジョロウグモ

<http://www.mmjp.or.jp/hujisyoudoku/kumo.htm> セアカゴケグモ

<http://chekware.simplenet.com/burrow/btsinfo.htm> British Trantula Society のホームページ

<http://www.ab.a.u-tokyo.ac.jp/bioesource/chida/kumo/kumo.html> 千田さんのホームページ

<http://www2.justnet.ne.jp/~tnaga> 長島忠義さんの「身近なクモ」紹介のホームページ

また、日本にも「クモネット」という日本語によるクモ学のメーリングリストがある。問い合わせ申し込みは東京大学の宮下 直氏まで。(E-mail: tmiya@uf.a.u-tokyo.ac.jp)

(谷川明男)



ギャラリー



Micrathena sexspinosa (Hahn, 1822)
メキシコからブラジルにかけて生息している

クモです。開しきの垂直円網を張ります。昔はやったフライングブイというエレキギターはこのクモの腹部の真似だったのではないのでしょうか。(谷川明男)



原稿募集中

「遊糸」の原稿を募集中です。ちょっとした観察記事(短報)、会員に広く知ってもらいたい情報(総説)、採集記録、文献紹介、各地の同好会の催物情報、研究上の標本や資料募集の記事等など、なんでも構いません。こんなコーナーも作って欲しいという希望があれば、それもOKです。会員の皆様のご協力を是非お願いします。

投稿にあたってのお願い。1.原稿はクモ形類・多足類に関する事ならなんでも構いません。2.字数制限はありませんが、あまりに長文の場合は削除や分割での掲載をお願いすることもあります。3.原稿はワープロが望ましいですが、手書き原稿、はがきなどでも構いません。

原稿送付先

190-0022 立川市錦町3-12-16-1103

新海 明まで

発行は、年2回(5月、11月)の予定。締切は発行月の前月末日です。

編集後記

遊糸2号をお届けすることができてほっとしている。このような冊子の宿命と覚悟はしていたのであるが、やはり原稿が集まらないのはつらい。幸い编者たちは「原稿がなければ作ればよい」との考えの持ち主たちばかりだから、予

定の紙面を埋めることができた。「遊糸」は日本全国に散らばるクモ好きの情報交換の掲示板にしたいと考えている。各地で採集されたクモの分布情報や生態のちょっとした観察記事、同好会の活動内容などをここにまとめて記録に残したいと思う。個人で記録した情報はそのままでは何にもならない。

記録されて初めて生きるものだと思う。「遊糸」をそんな掲示板として活用していただくよう、会員のご協力をぜひともお願いしたい。

(新海 明)

遊糸 第2号

1998年5月25日発行

編集者 新海 明、谷川明男、池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 西川喜朗
